

第3回「第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会」

次 第

日 時：平成31年1月21日（月）

13時00分～

場 所：名古屋市役所本庁舎5階正庁

I はじめに

委員の追加について

【資料Ⅰ】

II 議題

1 レガシー・ビジョン（仮称）の策定に向けた意見交換

まちの姿及び取り組みの方向性について

【資料Ⅱ】

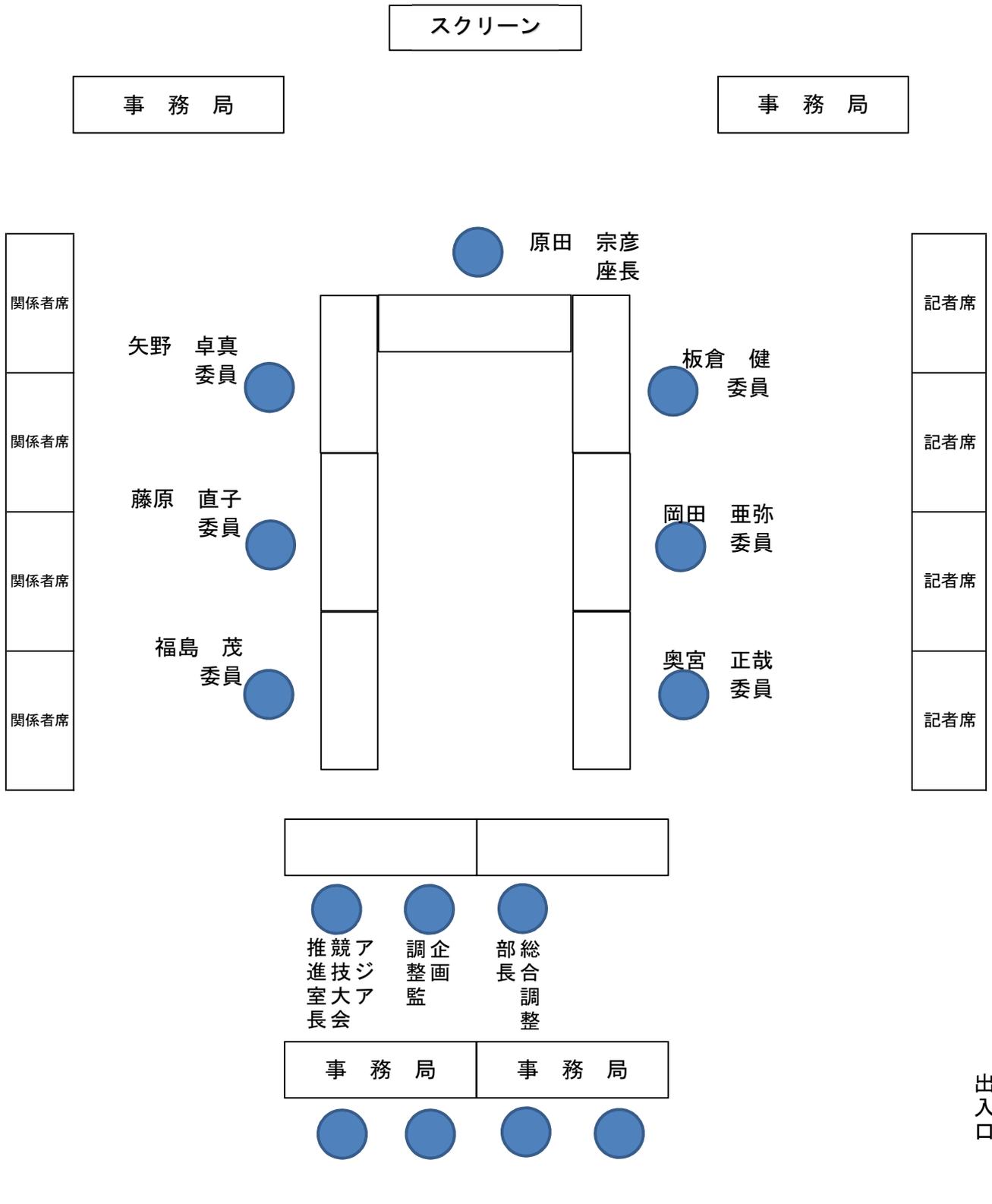
2 その他

（配布資料）

資 料 Ⅰ 委員の追加について

資 料 Ⅱ まちの姿及び取り組みの方向性について

第3回「第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会」 配席図



委員の追加について

(1) 趣旨

幅広い議論を行うため、委員を2名追加し、第3回有識者懇談会から委員9名でご議論いただくもの

(2) 委員

(敬称略 五十音順)

氏 名	分 野	役 職 等
板倉 健 (いたくら けん)	経 済	名古屋市立大学 経済学研究科教授
岡田 亜弥 (おかだ あや)	国際/多文化共生	名古屋大学大学院 国際開発研究科教授
奥宮 正哉 (おくみや まさや)	環 境	名古屋大学大学院 環境学研究科教授
◎原田 宗彦 (はらだ むねひこ)	スポーツマネジメント	早稲田大学 スポーツ科学学術院教授
福島 茂 (ふくしま しげる)	まちづくり	名城大学 都市情報学部都市情報学科教授
藤原 直子 (ふじわら なおこ)	多 様 性	椋山女学園大学 人間関係学部教授
松村 亜矢子(まつむら あやこ)	健康とスポーツ	中部大学 生命健康科学部講師
矢野 卓真 (やの たくま)	産 業 技 術	名古屋工業大学 産学官金連携機構准教授
○來田 享子 (らいた きょうこ)	スポーツと教育	中京大学 スポーツ科学部スポーツ教育学科教授

◎ : 座長 / ○ : 副座長

 : 第3回有識者懇談会から新たにご参画いただく委員

まちの姿1 健康・地域活力

スポーツにより、市民が健康に暮らし、地域の活動が盛んになることで、活力ある都市になっている

アジア競技大会を契機に、スポーツへの関心がより高まり、年齢、性別、障害の有無等に関わらず、誰もがスポーツを始めとする身体活動に親しむことで、市民の健康が増進され健康長寿が実現したまちとなります。特に子どもの運動機会が充実し、豊かな心と健やかな体が生まれ、子どもが健やかに成長します。

また、スポーツ大会、トップアスリートとの交流や各種イベントの実施、さらには、ボランティアを始めとする市民活動への参加意欲の高まりによる地域住民の社会貢献が定着することで、地域が活性化され活力に満ちたまちを実現します。

まちの姿2 誇り・魅力

スポーツにより、都市のブランドが確立するとともに、名古屋の魅力が国内外に発信されることで、にぎわいあふれ市民が誇りをもてる都市になっている

オリンピックに次ぐ大規模スポーツイベントであるアジア競技大会を開催したことが市民の誇りとなっているとともに、継続的な大規模スポーツ大会の誘致やトップアスリートの輩出につながり、スポーツが新たな都市ブランドのひとつとして国内外から認識されているまちとなります。

アジア競技大会の開催を契機に、スポーツに留まらず、歴史・文化などの名古屋の魅力が国内外に発信されることにより、本市への来訪を目的とした旅行者が年々増加し、まちがにぎわいにあふれています。また、同大会を契機としてホスピタリティへの意識が向上し、来訪者へのおもてなしが充実したまちを実現します。

取り組みの方向性	<p>① アクティブライフ（※）の推進、健康増進</p> <p>誰もが生涯にわたって、気軽に楽しくスポーツを始めとする身体活動に親しむことができる土壌を創出し、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じた健康寿命の延伸のため、健康づくりや運動・スポーツに参加する市民を増やします。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">※アクティブライフ：運動・スポーツのほか、レジャー、家事や階段の昇り降りなど日常生活における身体活動を通じて体を動かし、気軽に楽しく活動的な生活を送るライフスタイル</p>
	<p>② 子どものスポーツの充実</p> <p>子どもの豊かな心と健やかな体の育成に向けて、生涯にわたる運動習慣の確立を図り、地域における子どもの運動機会の充実に取り組みます。</p>
	<p>③ 地域活性化、市民活動の促進</p> <p>東京オリンピックパラリンピックのホストタウンやアジア競技大会の開催都市として、トップアスリートとの交流等を通じて地域活性化を図ります。また、大会を契機として、地域に関わる多様な人々の市民活動への関心を高め、参加を促進します。</p>

取り組みの方向性	<p>① スポーツを活かした魅力の創出・発信</p> <p>大会開催を本市のブランドの一つとして位置づけ、スポーツプロモーションの推進やスポーツツーリズムの推進に取り組み、本市の魅力の創出・発信につなげるとともに、シビックプライドを醸成します。</p>
	<p>② 大規模競技大会・イベントの誘致・開催</p> <p>スポーツコンベンションの場として、アジア競技大会を開催した名古屋を国内外にプロモーションし、更なる大規模競技大会・イベントを誘致・開催します。</p>
	<p>③ アスリートへの支援</p> <p>ジュニア選手への支援を行い、アジア競技大会をはじめとする国際大会で活躍する地元出身の選手を増やします。また、アスリートを支える環境を整えます。</p>
	<p>④ 名古屋が有する魅力資源の発掘・向上・発信</p> <p>スポーツに留まらず、歴史・文化・芸術・エンターテインメントなど名古屋が国内外に誇れる魅力資源を磨き上げ、更なる掘り起こしを進めるとともに、名古屋の魅力発信を促進します。</p>
	<p>⑤ インバウンドの促進、受入環境の整備</p> <p>国内のみならず世界中から本市及び圏域を目的地として人々が訪れるよう、インバウンドの促進に取り組み、交流人口の増加を図ります。また、国内外の来訪者が快適に滞在できるよう、ハード・ソフト両面から受入環境の整備を進めます。</p>

まちの姿3 国際交流・多様性

大会で、アジアをはじめとした諸外国や多様な人々との交流や理解が深まることで、豊かな国際感覚と多様性を備えるとともに、国際社会で活躍する人材が集う、開かれた都市になっている

アジア競技大会を契機に、スポーツや文化など幅広い分野で国際交流や国際貢献を推進することで、アジアをはじめとする諸外国とのネットワークを強化します。

将来を担う若者たちが、国際的な感覚と世界に挑戦する意欲を高め、国際社会に貢献できるグローバル人材を輩出するとともに、世界で活躍する人材が国内外から集うまちを実現します。

また、年齢、性別、障害の有無、文化的差異などを越えた多様な交流が活性化し、市民の豊かな国際感覚が養われ、多様性への理解が深まり、支えあうなど、すべての市民が暮らしやすい共生社会を実現します。

① 国際交流の推進

大会を契機として、産・学・民・官で、先催都市やアジア諸国をはじめとする諸外国と様々な分野での国際交流や国際貢献を推進し、特にアジア諸国とのネットワークを強化します。

② 次世代を担うグローバル人材の育成・確保

大会を契機として、本市がさらに世界に開けた都市となるため、質の高い教育環境の整備に取り組み、情報技術の進化などに対応できる資質や能力の育成を図るなど、グローバル社会で通用する知識やコミュニケーション能力を身につけた次世代を担う人材を育成するとともに、世界で活躍する人材が本市に集うよう取り組みます。

③ 共生社会の推進

大会を契機として、すべての市民が年齢、性別、障害の有無、文化的差異といったお互いの違いを違いとしてありのまま認めあうなど、多様性への理解を深めるとともに、誰もが安全に、安心して快適に暮らせるまちづくりに取り組みます。

取り組みの方向性

まちの姿4 イノベーション・持続可能性

大会で、活用した選手村や競技施設、先端技術などが、大会モデルとして未来に引き継がれるとともに、都市機能が強化され、絶え間なくイノベーションし続けることで、持続可能な都市になっている

アジア競技大会で活用する選手村や競技施設について、SDGsの理念を踏まえて社会課題に対応した整備を進め、大会終了後もまちづくりやにぎわいの拠点になるなど都市機能が強化されるとともに、大会運営の基盤やノウハウが本市に蓄積されます。

また、大会で活用された新技術が産業や社会生活に広く普及されるとともに、再生エネルギーの導入や省エネルギー化が推進されるなど、低炭素で循環型のまちづくりに繋げることで、強い産業力に加え環境にも配慮されたまちを実現します。

こうした取り組みが、大会モデルとして未来へ引き継がれるとともに、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能なまちを実現します。

① 大会モデルの構築

先端技術を活用し、低炭素で循環型のまちづくりにつながる質素・簡素・機能的・合理的な大会運営を行うことで、国際総合スポーツ大会における名古屋モデルを構築するとともに、大会運営の基盤やノウハウが本市に蓄積されます。

② 新しいモデルとしての選手村の構築と大会後のまちづくり

成熟都市における選手村の整備・運営の新たなモデルを構築するとともに、将来を見据え、名古屋競馬場跡地とともに周辺地区全体の魅力化・地区環境の向上につながるような、若々しく活力あふれ多様な出会いやコミュニティが育まれるまちの形成を進めます。

③ 大会後の活用を見据えた施設整備

大会後の活用を見据え、継続して大規模競技大会・イベントの誘致・開催に対応できるようにするとともに、アスリートだけでなく、すべての市民が安心・安全・快適に利用でき、賑わいの拠点などとなるようなスポーツ施設等の環境の整備を進めます。

④ 防災性・利便性を備えた都市機能の強化

大会を契機として、拡大する交流人口に対応する世界に冠たる交流拠点都市の形成をめざし、高い防災性と利便性を備えた都市機能の強化をすすめます。

⑤ イノベーションの創出、次世代産業の振興

産業分野においても絶え間ないイノベーションの創出を図り、大会を国内外へ先端技術を発信する場として活用するとともに、大会を契機として、多様な産業交流を進めます。また、AI、ロボット、自動運転といった先端技術を活用した次世代産業の振興を図ることで、域内経済の活性化や持続的な成長を図ります。

取り組みの方向性